

2024（令和6）年度

教職課程

自己点検・評価報告書

関西女子短期大学

令和7年3月

関西女子短期大学 教職課程認定学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・ 保育学科 ： 幼稚園教諭二種免許状
- ・ 養護保健学科 ： 養護教諭二種免許状

大学としての全体評価

本学の教職課程では、各学科の学修で培われる専門的な資質・能力を活かして、次世代育成を担う意欲・態度を有する教員の育成に努めてきた。保育学科では幼稚園教諭二種免許状、養護保健学科では養護教諭二種免許状の取得が可能であり、どちらの学科でも教員免許の取得を主たる目的としている。建学の精神「感恩」は、「学んだ知識や技術で社会に貢献する」専門的職業教育を教育理念に掲げており、このことを体現しているのが本学の教職課程ということになる。

本報告書は、教職課程に特化して実施した自己点検・評価の結果を集約したものである。改善すべき課題はみられるものの、全体としては適切な運営を行ってきたと判断することができ、今後も教職課程の質的向上に向けた取り組みを進めていく所存である。

関西女子短期大学
学長 津田 耕一

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	4
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	10
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	11

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：関西女子短期大学
- (2) 学科名：保育学科、養護保健学科
- (3) 所在地：大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1
- (4) 教職課程の履修学生数及び教員数（令和6年5月1日現在）

教職課程履修学生数 152名（保育学科、養護保健学科：在籍者数153名）

教職課程教員数（教職・教科とも）16名

- (5) 卒業者の現況（令和6年度／令和7年3月卒業生）

卒業生 204名

（うち保育学科 54名、養護保健学科 16名）

教育職員免許状取得者 62名

（内訳：幼稚園教諭二種免許状 52名、養護教諭二種免許状10名）

2 特色

本学の教職課程は、建学の精神「感恩」に則り、学んだ知識・技能を活かして社会に貢献できる専門的職業人の育成を教育目標としてきた。保育学科では、子どもを愛する心、思いやりの心、感性豊かな心を育むとともに、保育の知識・技能を身につけた、子どもとその保護者を支援できる幼稚園教諭の養成を行っている。また、養護保健学科では、子どもの心身の健康を守り育てる基本的な専門知識と技能、並びにそれらに裏打ちされた表現力と判断力を身につけた、実践力のある養護教諭の養成を行っている。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

教職課程を置く保育学科、養護保健学科の教育目的・目標は、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえて設定されており、教員免許取得を志す人物像と育成を目指す教師像とともに学生に周知している。また、教職課程の目的・目標を達成するための計画は、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえて逐次見直しを行い、全学的組織の教職課程センターを中心に教職課程委員会や学科会議等を通して、教職員の共通理解に基づいた運営を行っている。学生に対しては、各学科で教職課程履修者にオリエンテーションや授業を通して、育成を目指す教師像を学生に周知している。（資料 1-1-1）

各授業科目は卒業認定・学位授与の方針に基づいてカリキュラムに配置されており、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーにより、学生は身につけるべき資質・能力と各授業科目の関連性を理解できる。学修成果（ラーニング・アウトカム）は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえた内容であるが、本学では各学科の教育目的自体が教職課程の目的と言い換えられる。各授業科目のシラバスは、育成を目指す教師像に向けた到達目標が明示されており、その獲得状況はカリキュラム・マップにより紐づけられ、各学科の学修成果（ラーニング・アウトカム）として可視化されている。（資料 1-1-2）

〔優れた取組〕

卒業時においては、一人ひとりに通算 GPA を記載した「学位証書補足資料（ディプロマ・サプリメント）」を配付している。ディプロマ・サプリメントにより、卒業認定・学位授与の方針で掲げる能力がどの程度身についたか、学修成果（ラーニング・アウトカム）の可視化が図られている。（資料 1-1-2）

教職課程科目の履修指導では、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーを使って説明し、学生が必要な科目を理解できるようにしている。（資料 1-1-3）

〔改善の方向性・課題〕

教職課程の運営に当たっては、学内各組織との連携が求められることから、特に教職課程の運営を担う教職課程センターは、教務委員会や各学科の教職員との連携、協働体制を今後とも強化していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 1-1-1：教育理念、教育目的・目標（本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/）
- ・ 資料 1-1-2：学習成果のアセスメント
- ・ 資料 1-1-3：カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー
（本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/）

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学は、教職課程認定基準で定められた必要教職専任教員数を充足している。教員それぞれの研究実績の状況、教育現場等での実務経験の状況に基づく授業担当を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。また、教職課程運営の拠点として、全学的な組織である教職課程センターを設置している。教職課程センターは、教職課程に関係する事項を総括し、学生の資質能力の育成・向上と教職課程の円滑な運営及び教員養成に関わる業務について、教職課程センター員と学科の教職課程担当者との間で役割分担を図り、運営している。

教職課程を実施するために必要な教室や実習室、図書などの施設・設備は、十分に整備している。ICT教育環境についてはPC実習室を備えているほか、学内で持ち運びが可能なノートPCの貸出を行い、ICTを活用した教育に対応している。

教育の質の向上を図るFD活動の一環として、学期ごとに授業評価アンケートを実施している。教員は授業アンケートの結果を基に自己点検シートを作成して、授業内容や方法の改善に繋げている。(資料1－2－1) また、教職課程に関係する教職員は、一般社団法人全国私立大学教職課程協会や阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会の研究会に参加するなどFD・SD活動に取り組んでいる。

教職課程に関する情報は大学ホームページで公表しており、教育職員免許状の取得状況や就職状況等の情報を更新している。(資料1－2－2)

全学の組織的な取り組みとしては、一般財団法人短期大学基準協会の受審を想定した自己点検・評価を実施し、組織的な見直しを行っている。(資料1－2－3) 教職課程センターは学科教職員と連携し、教職課程に関する各種情報を共有することで、学修上の課題の把握・改善に努めている。令和4年度以降は教職課程の質の向上を図ることを目的とした「教職課程自己点検・評価」を実施し、教職課程の在り方を見直している。

〔優れた取組〕

令和2年6月に学園2号館が竣工し、同館の2階・3階に設置しているラーニング・コモンズは学生の自発的な学修の促進、協同学修を推進している。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程を取り巻く状況は日々変化しており、学科の垣根を越えて情報を共有し、複雑化する学生対応や進化する教育ツールについて、FD・SD活動を通して研鑽を積む必要がある。

また、教職課程の学生がICT活用能力を身につけ、自主的学修の促進のために学生のノートPCの必携化についての検討が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1－2－1：授業評価アンケート

- ・資料１－２－２：教職課程に関する情報公開（本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/）
- ・資料１－２－３：自己点検・評価報告書（本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/）

基準領域２ 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１ 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

学科ごとにアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を策定し、教員養成の目標や教職課程で学ぶにふさわしい学生像を明示し、大学ホームページで広く学内外に公開している。（資料２－１－１）また、大学ホームページや学生募集パンフレットでは、教職に就いている卒業生のインタビューを掲載し、学科独自の教職課程の学びや教職の魅力を発信している。オープンキャンパス等の説明会では受験生に対して教職課程の説明を丁寧に行っており、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入学者選抜を実施している。入学後においても各学科で定期的にガイダンスを開催し、各学年に対応した指導を行い、教職課程の履修継続についても個別指導を行っている。

教員養成を目的とした保育学科、養護保健学科では教職課程の履修に基準や制限を設けていないが、入学後のオリエンテーション等では、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を示し、教職に就く心構えや必要な学びについて適切に指導し、目指す教員像を学生が直接意識する機会となるよう教職課程の履修に向けた理解を深めている。ただし、「教育実習」については、履修要件にGPAを用いた制限を設けており、学外実習に関する内規に定める要件を満たしていない場合は履修を認めていない。（資料２－１－２）

本学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、教職課程の質の維持・向上と学生の学習効果を最大化するために、適切な規模の学生を受け入れている。

また「履修カルテ」の活用を通して、教員に必要な資質能力に関して改善すべき課題等を学生自身が把握できるよう、学生の学習状況や資質能力に応じた個別指導を丁寧に行っている。（資料２－１－３）

〔優れた取組〕

教職課程科目のガイダンスや学修時には、履修カルテの活用に加え、学生が体系的に履修できるよう学科のカリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップを用いて教職課程科目の学習成果や到達目標等について説明しており、学生が教職を担うことへの自覚を深めながら教職課程の履修を継続していく仕組みとなっている。学生に配付するカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップは大学ホームページにも掲載している。（資料２－１－１）

〔改善の方向性・課題〕

保育学科、養護保健学科においては教職課程の履修を前提に入学してくるが、在籍途中で教職課程の履修を取りやめる学生がいる。今後は入学前から、教職課程に関するより丁寧な情報提供を行うことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：学則、三つのポリシー（本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/）
- ・資料2-1-2：関西女子短期大学 学外実習に関する内規
- ・資料2-1-3：履修カルテ

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

学生の指導については教職担当教員だけでなく、学科会議などを通して学科教員全体で情報を共有している。教職科目の多くの授業を専任教員が担当しているため、学生の教職に対する意欲や適性等、学習状況も把握しやすい。また、教職課程を充実するために実務経験のある教員をゲストスピーカーとして招聘することや、教職に就いている卒業生から教育現場の話（卒業生講話）を聞くことで、教職へ就くことへの意識を高めている。卒業生に対しては卒業後も定期的に研修等の機会を設けることで連携を図っている。

教職におけるキャリア支援については、授業だけでなく授業外でも行われている。学生支援センターでは、地方公共団体からの情報収集に力を注ぎ、教員としての採用を希望する学生に対して情報を提供するとともに、就職活動に関するセミナーや実務経験豊富な教員による教員採用試験対策講座を開講しており、養護保健学科では採用試験に向けた面接練習や個々に応じたキャリア支援を組織的に行なっている。（資料2-2-1）

図書館やラーニング・コモンズをはじめとした共同スペースに、各府県市町村の教員採用試験過去問題集、教科書類、参考書等を設置し、教員採用試験に関する図書の充実を図っている。採用試験に向けての勉強法や採用に関する情報を得られるような機会とともに、教員採用試験に関する図書の充実を図り、採用試験に向けた支援体制を整えている。（資料2-2-2）

〔優れた取組〕

ゼミ教員を中心に学生ひとり一人に対して入学から卒業まで、学修・資格・就職等、学生生活全般をサポートし、学生のニーズに合わせたキャリア支援を行っている。そのために活用しているのが「夢ノート」であり、学生は計画と振り返りを教員と共有する過程で個別に助言等を得ている。また、ゼミの授業時間以外でも指導を受けられる機会を確保するため、専任教員全員の「オフィスアワー」を学生ポータルシステムUNIVERSAL PASSPORT（UNIPA／ユニパ）の教員スケジュールに掲載し、空き時間を利用した面接練習や模擬試験対策等、学生の個別指導を促している。（資料2-2-3）

本学では過去には更新講習を実施し、また併設する大学で養護教諭に係る免許法認定講習を現在も実施しており、認定講習を通して卒業生や地域の教員との交流や情報収集を図っている。（資料2-2-4）

〔改善の方向性・課題〕

教育現場がより複雑な課題を抱える中で、学生が将来の教員として働くことに対する意欲

を高め、働き方や自己研鑽の方法を具体的に知ることができる機会として、現役の教員と交流する機会を多く持つことが必要である。また、卒業生や地域の教員と連携し、教職に就くためのより効率的な情報共有の方法を検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：求人検索NAV I（福科大&関女どこでもキャンパス <http://dc.kwc.ac.jp/>）
- ・資料2-2-2：図書館蔵書検索OPAC
(本学公式サイト「図書館について」 <https://www.kwc.ac.jp/profile/library/librarytop.html>)
- ・資料2-2-3：夢ノート（本学公式サイト「夢ノート」 <https://www.kwc.ac.jp/career/dream.html>）
- ・資料2-2-3：ユニパ（教員スケジュール）（「UNIVERSAL PASSPORT」 <https://unipa.fuksi-kagk-u.ac.jp/uprx/>）
- ・資料2-2-4：「免許法認定講習」案内

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学では、建学の精神である「感恩」に基づく教育理念に沿ってカリキュラムの編成を行っており、社会に貢献し得る専門的職業人の育成を目指している。学科の専門知識を基に、教員としての専門性を高めるような教職課程カリキュラムを編成・実施している。また、キャップ制（履修単位数の制限）を設けることにより学生の自発的な学習時間を確保し、学習効果の向上を図っている。（資料3-1-1）

本学の教職課程カリキュラムは、教育職員免許法施行規則、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムとなっている。加えて、本学が所在する大阪府策定の教員育成指標を考慮し、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を策定することで、学校教育の現状に対応する内容上の工夫がなされている。

本学では、「コンピュータ基礎Ⅰ・Ⅱ」の履修が必須であり（卒業必修）、さらに令和5年度から「データサイエンス入門」を加え、ICT機器を使用するための基礎教育を充実させている。そのうえで「教育の方法及び技術」を主軸に、教員として身につけることが必要な情報活用能力を育てる指導を行っている。（資料3-1-2）

各授業科目では到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した指導法を導入している。本学では学習支援システム「manaba（マナバ）」を導入しており、学生からのレポート提出や教員からの講義資料提供、教員・学生双方からスレッドの立ち上げ可能な掲示板機能などインターネット上での指導を可能にしている。（資料3-1-3）また、キャンパスにはラーニング・コモンズを設置し、グループワーク、模擬授業等、多様なアクティブ・ラーニングの実施が可能である。

全ての科目のシラバスに授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等を明確に記載しており、教職課程カリキュラムの科目もそれに準じている。各授業科目のシラバスを学生はユニパで閲覧でき、外部からは大学ホームペー

ジに公開しているユニパのシラバス照会からも検索が可能である。(資料3-1-2)

基準項目2-1で述べたとおり、教育実習(幼・養)を行う上で必要な履修要件を設定し、実習の事前事後指導を通して、その目的や活動内容、必要な知識、ルールなどの説明を行い、ひとり一人の学生が実習に円滑に取り組み、その目的を達成できるよう十分な指導を行っている。

教職課程を履修する学生は、履修カルテの記載を通して見出された課題を把握し、今後の学習を計画的に進めるために自らの学びの成果を確認している。教員は履修カルテを個別対応に活かし、学生の資質能力に応じたきめ細やかな指導を行っている。また、教職実践演習にも活用し、教員養成の質向上とより効果的な学習支援に繋げている。(資料3-1-4)。

〔優れた取組〕

保育学科の教育実習では、共通教育科目である基礎演習Ⅰ・Ⅱ(1年ゼミ)や保育所実習、学科行事等と科目内容を連携させて活動内容の連続性に留意すると同時に、時系列の日誌様式から段階的にエピソード記録へ移行する等の改善を行っている。

養護保健学科では、1年次より特別講義Ⅰ～Ⅳ、教員採用試験対策講座を開講し、教員採用試験合格を目指すことでより確かな目的意識をもって学修に取り組むことができるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

教員養成の質を担保しつつ、カリキュラムのスリム化や学生の免許取得上の負担減を検討する必要がある。また、履修カルテの活用について、担当者の裁量に委ねられている部分が大きく、今後、共通理解や書式の再考を図っていくことで、学生への指導内容をより有益なものとしたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料3-1-1：履修登録内規(履修単位数の上限)
- ・ 資料3-1-2：ユニパ(シラバス検索)(本学公式サイト「情報公開」https://www.kwc.ac.jp/profile/public_info/)
- ・ 資料3-1-3：「manaba(マナバ)」
(福科大&関女どこでもキャンパス<http://dc.kwc.ac.jp/>、「manaba」<https://fkj.manaba.jp/ct/login>)
- ・ 資料3-1-4：履修カルテ

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

各教職課程には、取得する教員免許状での実務経験がある教員を配置している。教職課程の総まとめとなる教職実践演習では、実務経験がある教員が教育現場での課題を授業で取り上げることで、取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成し、教員としての資質を高める機会を設けている。また、実際の教育現場が体験できる教育実習では、教育実習の意義や心構えなど実習に必要な事前準備・指導を行い、事後指導では実習後の実習日誌を

活用して振り返りを行うことで強みや改善点を見つけ、学生が成長するための糧としている。各学科においては、教育実習を充実させるために教育委員会や各実習先と連携して受入調整を行ない、実習を適切に実施している。学科教員が実習先に訪問し学生の実習態度や実践的指導力を把握するとともに、教育実習先と情報交換を行い教職指導に活かしている。

〔優れた取組〕

保育学科では例年、保育・教職実践演習の時間に柏原市に講師派遣を依頼し、現代的な課題について就職前の学生に講話をいただいている。また、附属幼稚園との連携を通じ、学生は授業やボランティア等で子どもたちと日常的に関わる機会がある。養護保健学科でも例年、藤井寺保健所に講師派遣を依頼し、現代的な課題について講話をいただいている。また、提携自治体の「学校支援学生ボランティア」の募集に応じて、学校現場で子どもたちに関わる機会を得ることができるようにしている。（資料３－２－１）

〔改善の方向性・課題〕

保育学科では令和６年度より、カリキュラムに余裕がある長期履修（３年制）を導入したが、養護保健学科を含む２年制の学生はカリキュラムに余裕がなく、インターンシップやボランティアへの参加が難しい状況を改善する必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料３－２－１：ボランティア一覧

Ⅲ 総合評価

本学は１９４２年の設立からこれまで、社会に貢献できる多くの人材を育成してきた。本学の教育理念に基づき、豊かな人間性と高い倫理観を養い、明確で高い目的意識を持った専門的職業人を養成し社会に送り出している。加速化する少子化により、本学においても教職課程を履修する学生は減少傾向にあるが、教職に就く意欲を学生が維持するために、本学独自のキャリア支援ツール「夢ノート」等を活用しながら入学当初から段階的な目標設定を行い、学生の学修意欲を高めている。また、教員を目指す先輩や現職の先生との交流は、学生が教員という職業のやりがいや魅力を理解し、教員としてのキャリアパスを具体的にイメージすることで将来の明確な目標を持つきっかけとなっている。教員採用試験対策については、学生支援センターと学科が連携して教員採用試験に向けた支援を行う環境を整えており、即戦力となるよう実践的な指導を重視している。今後も引き続き教員免許を取得するための環境を整備し、将来教職に就く学生に対して、より高い実践力が身に付けられるよう改善を図る。

以上の自己点検・評価を通じ、本学の教職課程では、概ね適切な取り組みが行われていると結

論付けられる。引き続き、教職課程センターを中心に教員養成の適切な運営を維持するべく努力していく必要がある。今後も自己点検・評価を通じ、これからの時代に即した教職教育の見直しを行いながら、本学の特性を活かした教職課程の改善につなげたい。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和3年度は教職課程委員会において実施体制を検討した。令和4年度は「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」の基準に則って各学科の教職課程委員が「自己点検・評価シート」を作成し、自己点検を実施した。令和5年度は上記の「自己点検・評価シート」を集約し、全国私立教職課程協会の記入フォームに対応した「自己点検評価報告書」の執筆を行った。令和6年度も引き続き「自己点検・評価報告書」の作成に取り組み、本報告書が完成した。本報告書は教職課程センター所属職員が原案を作成し、次に教職課程センター長が各学科の活動を参照しながら本学の教職課程全体の取り組みを総括した。本報告書は教職課程委員会にて承認後、全国私立大学教職課程協会へ報告及び大学ホームページにて公表予定である。